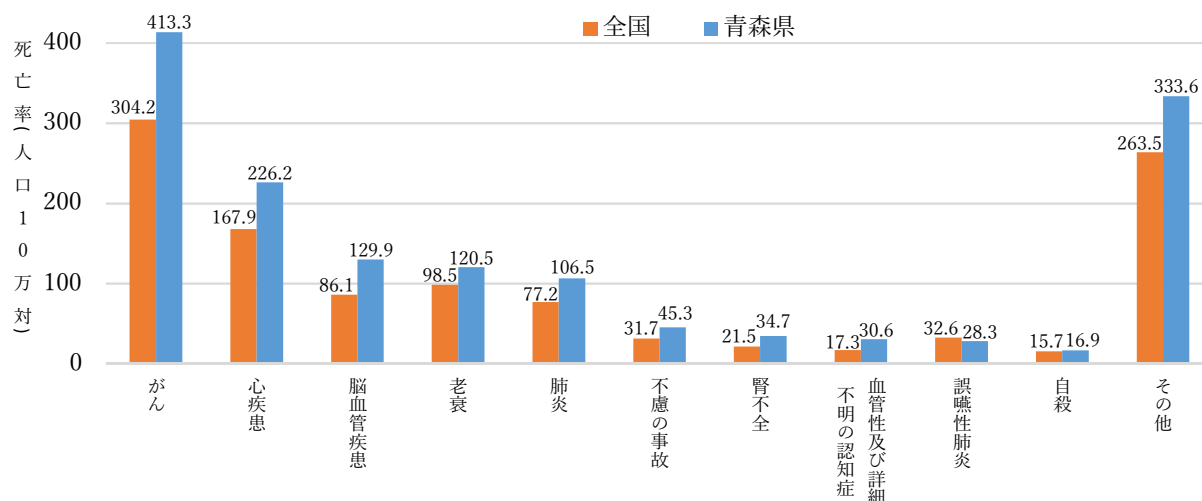


附属資料 1 青森県の現状と課題

1 全死因に占めるがんの割合

青森県では2019年の全死亡者18,424人のうち、悪性新生物（以下「がん」という。）による死亡者が5,125人で全体の27.8%を占めており、人口10万人あたり約413人が年間にがんで死亡していることとなります。

図1 主な死因別死亡率（人口10万対）（2019年）



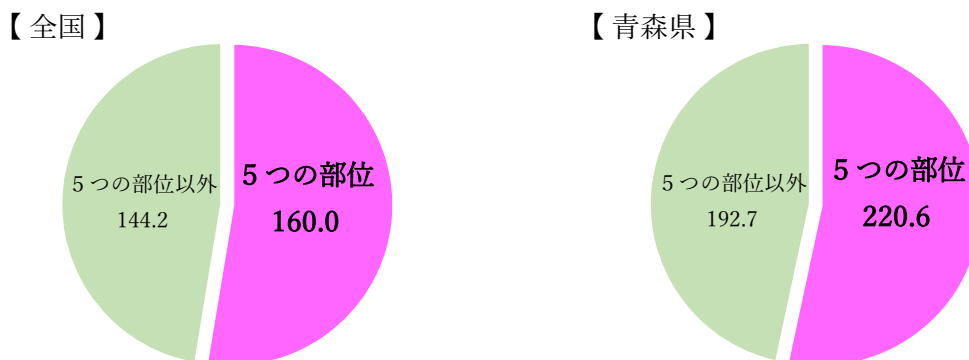
出典：（全国）厚生労働省 令和元年(2019)人口動態統計(確定数)の概況
 （青森県）健康福祉部 令和元年青森県人口動態統計(確定数)の概況

この中で厚生労働省の指針で定めるがん検診に基づく5つの部位（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸）では、人口10万人あたり約220人が年間に死亡していることになり、がん死亡全体の約53%を占めます。

これは、がん死亡全体のどの程度を検診で対応できるかという目安になります。

なお、子宮がんの死亡率は子宮頸部のほか子宮体部等も含んでいること、がん検診を受けることより死亡率が下がる可能性はあるがゼロにはならないことに留意する必要があります。

図2 がん死亡率の内訳（人口10万対）（2019年）

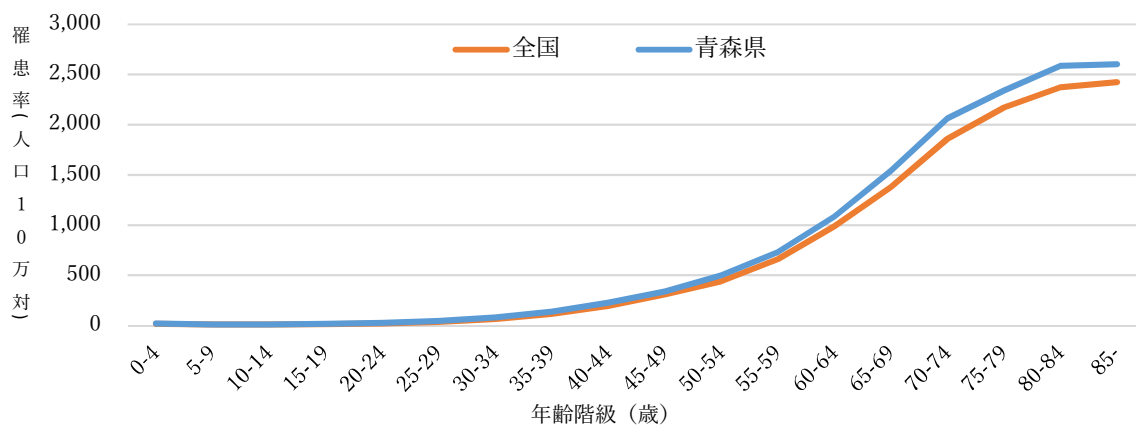


出典：（全国）厚生労働省 令和元年(2019)人口動態統計(確定数)の概況
 （青森県）健康福祉部 令和元年青森県人口動態統計(確定数)の概況

2 全がんの年齢階級別の罹患と死亡

がんの罹患率は年齢があがるにつれ上昇するのが一般的です。全ての部位のがんの罹患率を青森県と全国で年齢階級別に比較した場合、50歳代から青森県と全国の差が拡大しています。

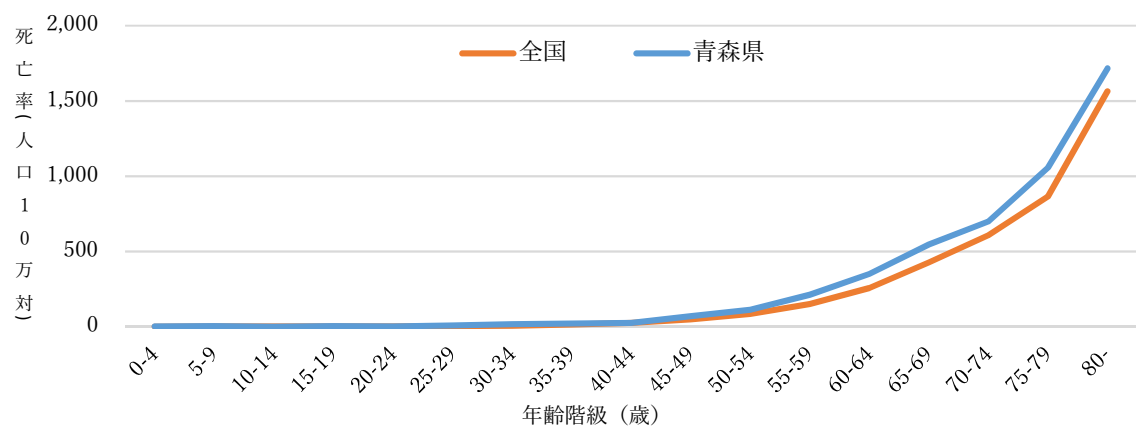
図3 全がんの年齢階級別罹患率（人口10万対）（2016年）



出典：(全国) 厚生労働省健康局がん・疾病対策課「平成28年全国がん登録罹患数・率報告」
(青森県) 青森県がん登録報告書平成28年分集計

がんの死亡率も罹患率と同様に年齢との相関関係があり、全てのがんの死亡率を青森県と全国で年齢階級別に比較した場合、こちらも50歳代から青森県と全国の差が拡大しており、青森県では働き盛り世代のがんの死亡率が高いといえます。

図4 全がんの年齢階級別死亡率（人口10万対）（2019年）

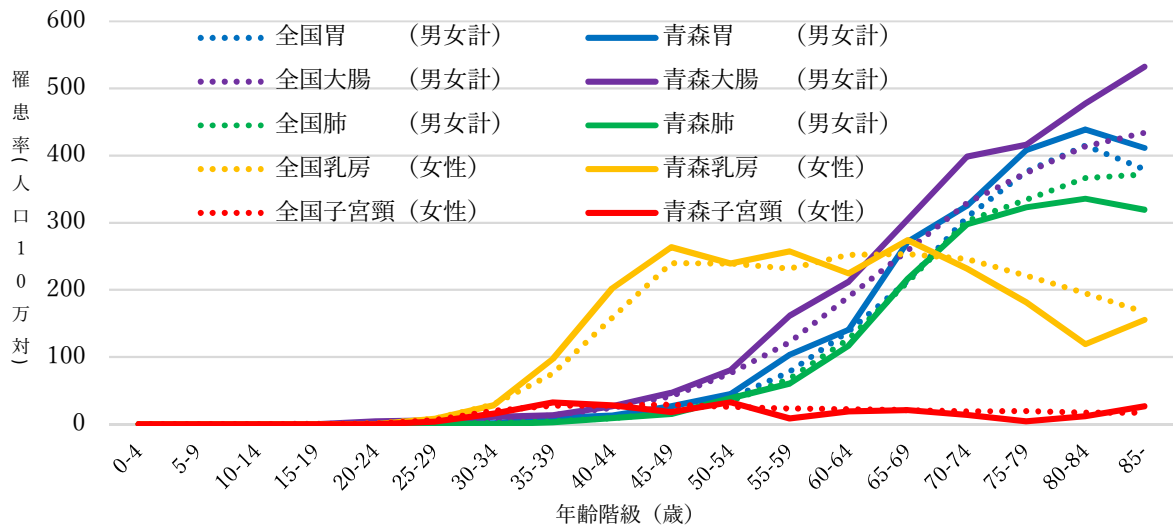


出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」（人口動態統計）

3 主ながんの年齢階級別の罹患と死亡

ここでは主ながんとして「胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん」の5つのがんの罹患率を青森県と全国で年齢階級別に比較しています。特に青森県の大腸がん罹患率が全国を大きく上回っています。

図5 主ながんの年齢階級別罹患率（人口10万対）（2016年）

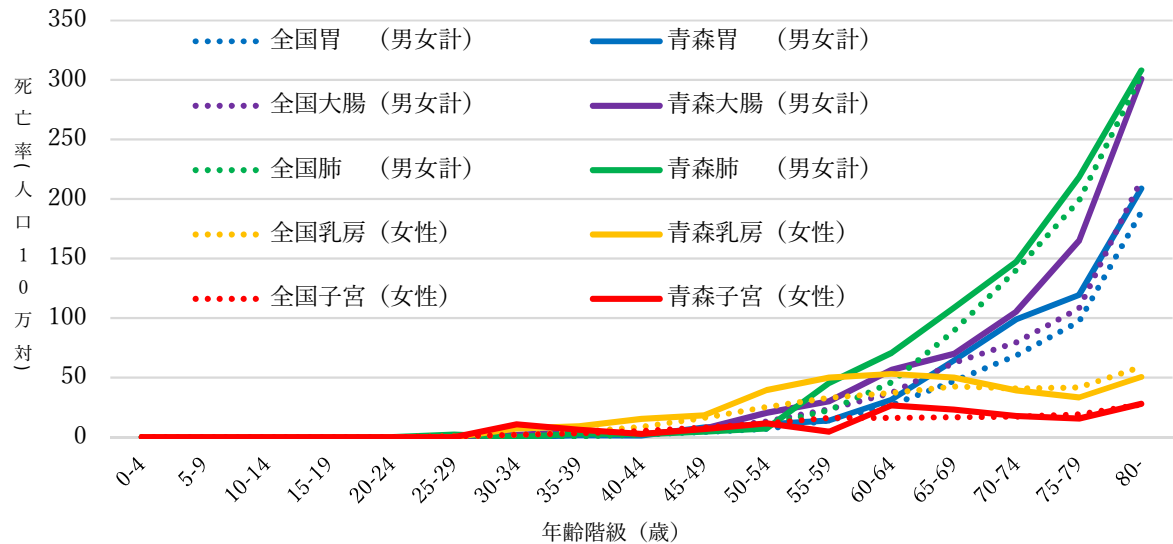


出典：（全国）厚生労働省健康局がん・疾病対策課「平成28年全国がん登録罹患数・率報告」（青森県）青森県がん登録報告書平成28年分集計

次に主ながんの死亡率について、青森県は全国と比較して全体的に高く、50歳代前後からその差が拡大しています。特に大腸がん死亡率は罹患率同様全国を大きく上回っています。

なお、子宮がんの死亡率は子宮頸部のほか子宮体部等を含んでいます。

図6 主ながんの年齢階級別死亡率（人口10万対）（2019年）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

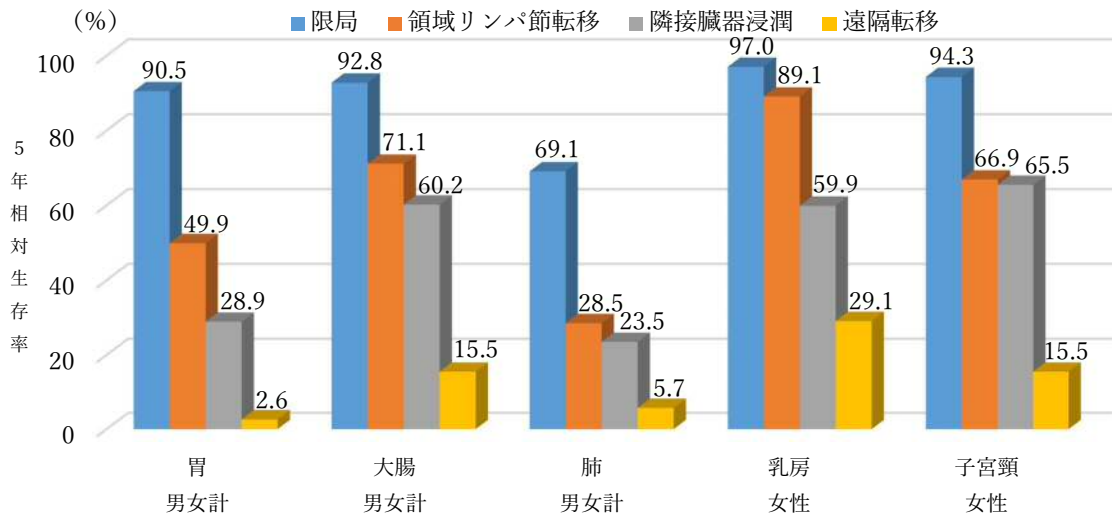
4 主ながんの5年相対生存率

青森県では働き盛り世代の死亡率が全国と比較して高いことから、がんによる早すぎる死を防ぐため、生活習慣の改善等による予防に加えて、がんを早期発見・早期治療することが大切になります。青森県が集計した2011年分の県内5年相対生存

率は、がんを早期発見した場合概ね90%以上である一方、発見が遅れた場合は30%以下にまで低下しています。

※2011年分集計時点での青森県がん登録の登録精度は登録漏れが多いものと推測されるため、全国推計や他の都道府県との比較には適さない参考値である点に留意する必要があります。ただし、青森県がん登録の登録精度は劇的に改善しており、数年内には他と比較可能な5年相対生存率が算出されるものと見込まれます。

図7 青森県の主ながんの5年相対生存率

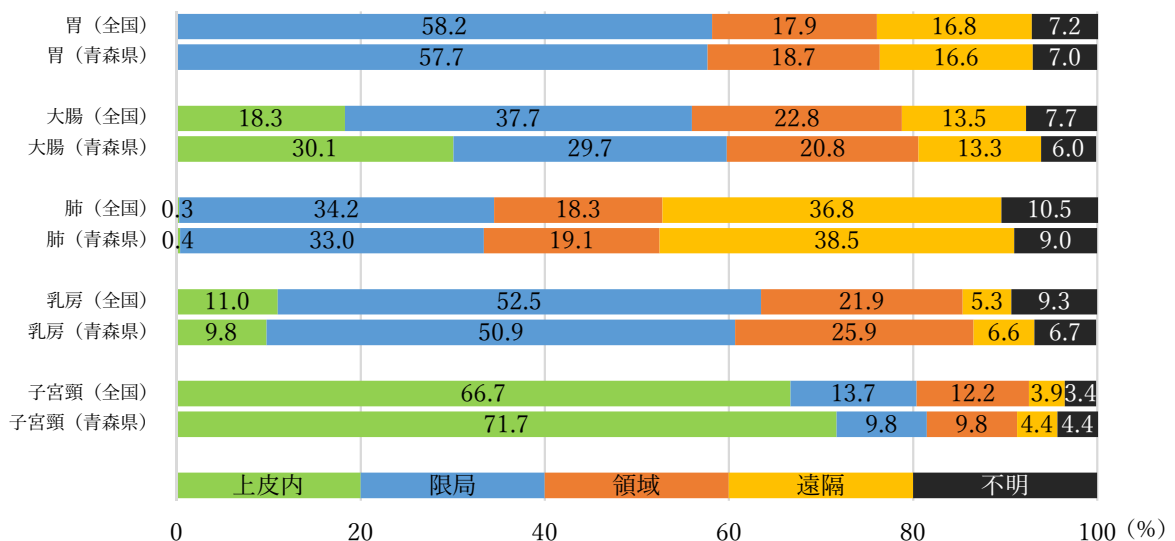


出典：青森県がん登録報告書平成28年分集計

5 主ながんの臨床進行度

がんと診断された時点での進行度について、青森県と全国を比較すると胃、肺、乳房において上皮内がん・限局の段階で診断される割合が全国より青森県の方が少なく、大腸、子宮頸では全国を上回っています。

図8 主ながんの臨床進行度



出典：青森県がん登録報告書平成28年分集計

6 市町村におけるがん検診の実施状況（国指針に基づくもの）

青森県では厚生労働省が定める「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（以下「国指針」という。）による科学的根拠に基づくがん検診を、市町村が実施することを推進しています。

国指針によるがん検診のうち、主な項目の実施状況は次のとおりです。

（１）がん検診の種類（国指針に基づくもの）

国指針で定める種類は「胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん」の５種類であり、青森県では全ての市町村が実施しています。

（２）がん検診の対象年齢（国指針に基づくもの）

国指針で定める対象年齢は５種類ごとに下限が決まっており、青森県では半数以上の市町村が対象年齢を遵守して検診を実施しています。

（３）がん検診の検診間隔（国指針に基づくもの）

国指針で定める検診間隔は５種類ごとに決まっており、青森県では半数以下の市町村が検診間隔を遵守して検診を実施しています。

7 市町村におけるがん検診の実施状況（国指針に基づかないもの）

青森県では多くの市町村が国指針に基づくがん検診を実施していますが、一方で国指針に基づかないもの（以下「指針外検診」という。）も実施しています。

ここでは指針外検診を、下記①～③のいずれかにあてはまる場合として定義します。

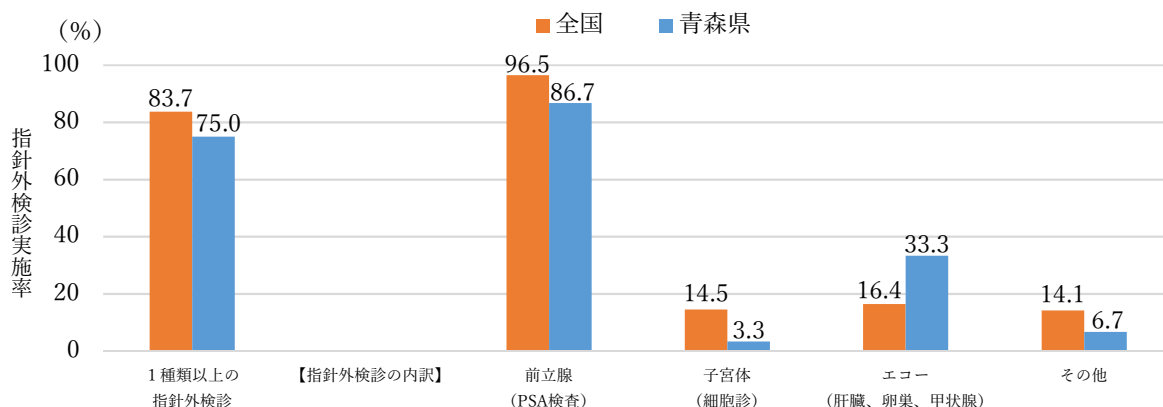
- ①がん検診の種類：国指針以外のがん検診を実施している
- ②がん検診の対象年齢：国指針で定めるがん検診のうち、対象年齢の下限未満の者（若年者）を実施対象としている
- ③がん検診の検診間隔：国指針で定めるがん検診のうち、検診間隔よりも短い期間の者（頻回者）を実施対象としている

このことについて、指針外検診の実施状況は次のとおりです。

（１）がん検診の種類（国指針に基づかないもの）

１種類以上の指針外検診を実施している市町村は32市町村あり、青森県は全国と比較してその割合は低いものの、多くの市町村で未だ実施しています。

図9 【検診の種類】指針外検診を実施している市町村の割合（2019年度）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

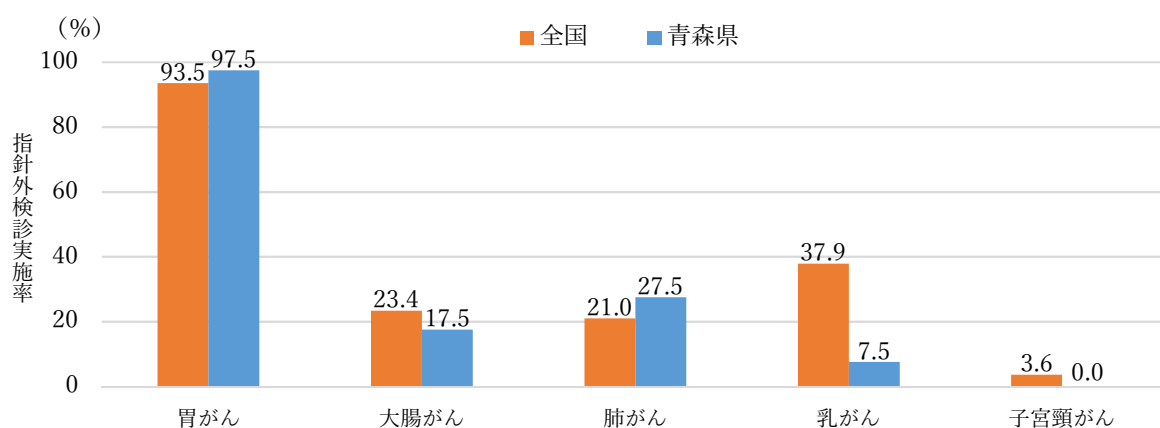
(2) がん検診の対象年齢（国指針に基づかないもの）

国指針で定めるがん検診は対象年齢の下限がそれぞれ決められていますが、青森県は全国と比較してその割合は概ね低いものの、若年者を実施対象としている市町村があります。

なお、胃がん検診に関しては対象年齢が50歳以上の場合のみ遵守していることとして集計しているため、指針外検診実施率は見かけ上、高くなっています。

(国指針では、胃部エックス線検査について当分の間、40歳以上の者を対象として差し支えないことが明記されています。)

図10 【対象年齢】指針外検診を実施している市町村の割合（2019年度）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

(3) がん検診の検診間隔（国指針に基づかないもの）

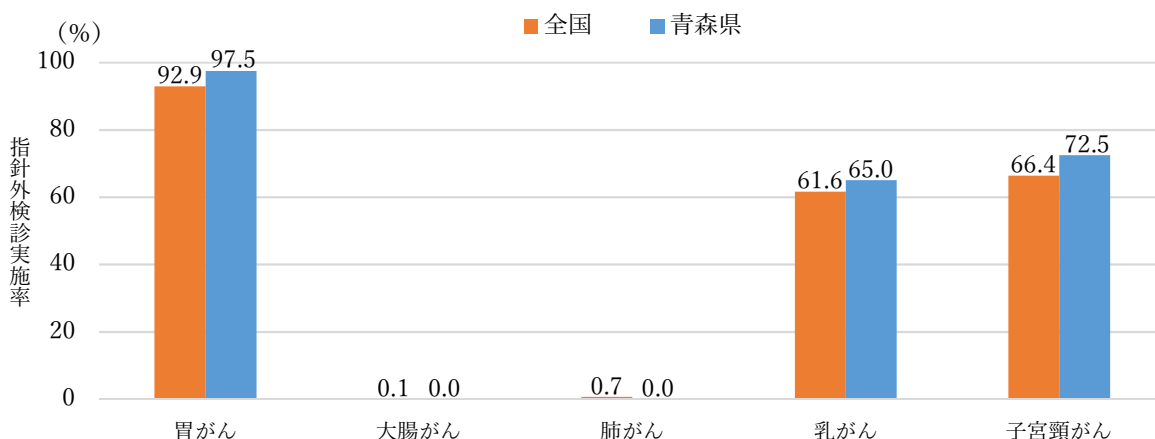
国指針で定めるがん検診は検診間隔がそれぞれ決められていますが、青森県は全国と比較してその割合は概ね低いものの、頻回者を実施対象としている市町村があります。

なお、胃がん検診に関しては検診間隔が2年に1回の場合のみ遵守している

こととして集計しているため、指針外検診実施率は見かけ上、高くなっています。

(国指針では、胃部エックス線検査について当分の間、年1回実施しても差し支えないことが明記されています。)

図11 【検診間隔】指針外検診を実施している市町村の割合(2019年度)



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

8 市町村におけるがん検診の精度管理

(1) 技術・体制指標

がん検診に関与する機関が最低限整備すべき技術・体制指標について「事業評価のためのチェックリスト」があり、都道府県用・市区町村用・検診機関用の3種類に分かれています。市区町村用チェックリストの調査結果では、青森県は概ね全国を上回っており、指標に基づく検診実施体制が整備されてきています。また、集団検診と個別検診を比較した場合、実施率、全国順位ともに集団検診が高くなっています。

なお、チェックリストの項目内には、市町村が単独で達成できるものもあれば、地域全体が連携しないと達成できないものもあることに留意する必要があります。

表1 がん検診市区町村チェックリスト実施率(2020年度)

※青森県の()内は全国順位

検診形態	胃(X線)	大腸	肺	乳房	子宮頸
集団検診					
全国	81.1%	80.8%	80.7%	81.5%	81.3%
青森県	88.9% (15)	88.5% (17)	88.4% (18)	88.5% (17)	88.5% (18)
個別検診					
全国	70.1%	71.6%	69.9%	73.4%	73.5%
青森県	71.9% (28)	73.6% (26)	77.7% (22)	71.9% (28)	75.1% (25)

出典：国立がん研究センター令和2年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」結果報告書

(2) プロセス指標

プロセス指標は受診率のほか下表の項目から成り、各数値目標（許容値等）と比較し、がん検診事業が適切に行われているかを評価します。地域保健・健康増進事業報告の結果から、青森県の各指標は概ね許容値を満たしています。

なお、「精検受診率」は100%近くなければ陽性反応適中度やがん発見率を適切に評価できないため、特に重要な指標の1つに位置付けられます。

表2 プロセス指標（検診受診率を除く）

胃がん検診（X線）	許容値	全国	青森県	対象年度	対象年齢
要精検率	11.0% 以下	6.6%	8.4%	2018年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70% 以上	81.4%	82.9%		
精検未受診率	20% 以下	7.0%	7.1%		
精検未把握率	10% 以下	11.7%	10.0%		
陽性反応適中度	1.0% 以上	1.5%	1.2%	2016～2018年度	
がん発見率	0.11% 以上	0.10%	0.11%		
大腸がん検診	許容値	全国	青森県	対象年度	対象年齢
要精検率	7.0% 以下	6.2%	6.0%	2018年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70% 以上	71.4%	75.4%		
精検未受診率	20% 以下	12.3%	12.6%		
精検未把握率	10% 以下	16.3%	12.0%		
陽性反応適中度	1.9% 以上	3.1%	3.1%	2016～2018年度	
がん発見率	0.13% 以上	0.20%	0.19%		
肺がん検診	許容値	全国	青森県	対象年度	対象年齢
要精検率	3.0% 以下	1.8%	1.1%	2018年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70% 以上	83.8%	87.0%		
精検未受診率	20% 以下	5.6%	6.1%		
精検未把握率	10% 以下	10.6%	6.9%		
陽性反応適中度	1.3% 以上	2.5%	2.9%	2016～2018年度	
がん発見率	0.03% 以上	0.05%	0.04%		
乳がん検診	許容値	全国	青森県	対象年度	対象年齢
要精検率	11.0% 以下	6.3%	6.2%	2018年度	40～74歳 女性
精検受診率	80% 以上	89.2%	92.2%		
精検未受診率	10% 以下	2.9%	4.2%		
精検未把握率	10% 以下	7.9%	3.5%		
陽性反応適中度	2.5% 以上	4.8%	5.0%	2016～2018年度	
がん発見率	0.23% 以上	0.30%	0.31%		
子宮頸がん検診	許容値	全国	青森県	対象年度	対象年齢
要精検率	1.4% 以下*	2.1%	2.2%	2018年度	20～74歳 女性
精検受診率	70% 以上	75.5%	85.7%		
精検未受診率	20% 以下	6.6%	4.9%		
精検未把握率	10% 以下	17.9%	9.4%		
陽性反応適中度	4.0% 以上*	1.5%	1.5%	2016～2018年度	
がん発見率	0.05% 以上*	0.03%	0.03%		

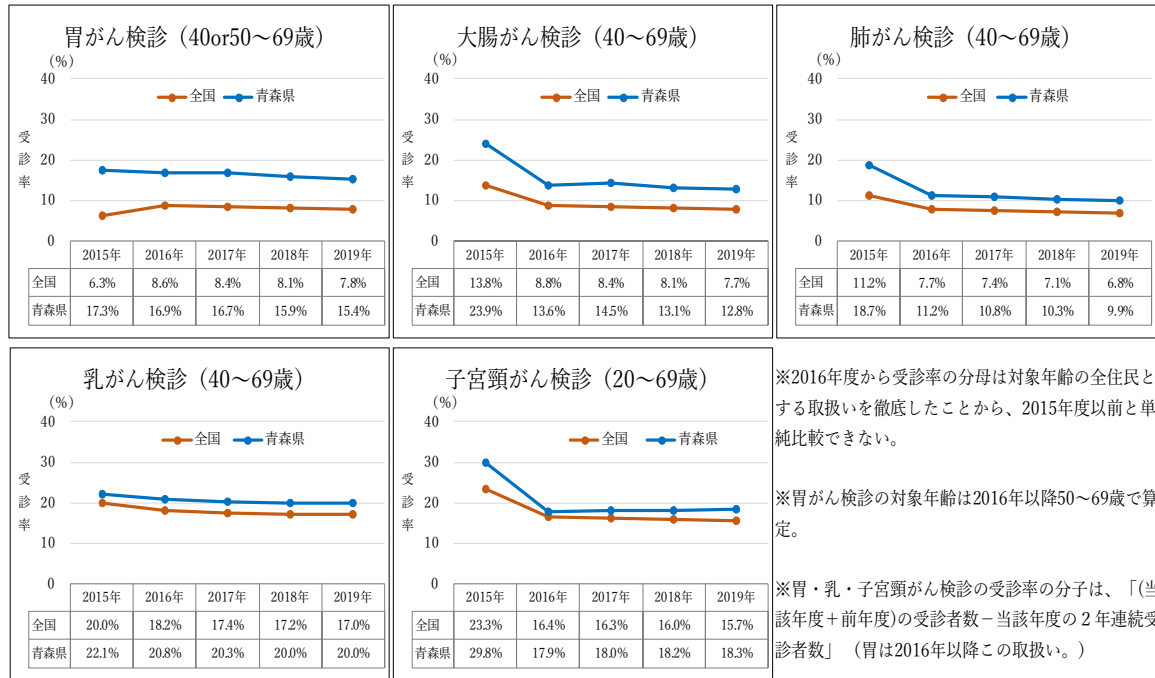
※ 今後、許容値が見直される可能性があります。

出典：平成29～令和元年度地域保健・健康増進事業報告

9 がん検診の受診率

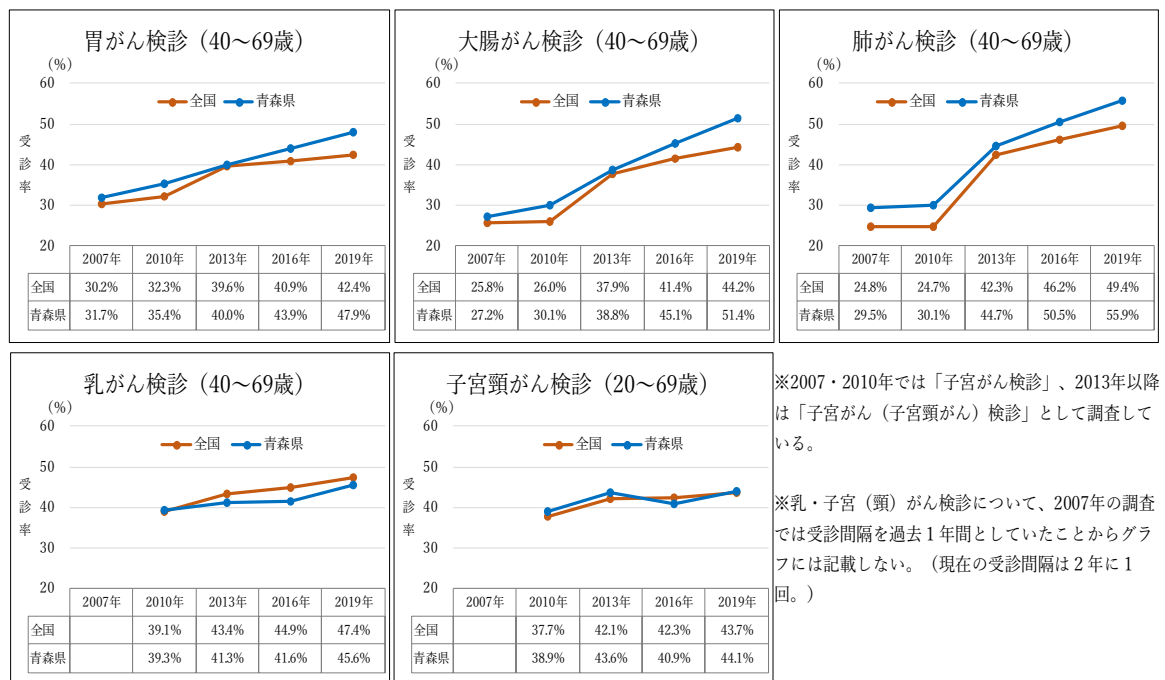
がん検診によって死亡率を減少させるためには、検診の質（プロセス指標）を高く保つことが第一の条件であり、その上で検診受診率を高める必要があります。「地域保健・健康増進事業報告」と「国民生活基礎調査」という受診率に関する2つの調査結果から、青森県は概ね全国を上回っています。

図12 地域保健・健康増進事業報告に基づく受診率



出典：平成27~令和元年度地域保健・健康増進事業報告

図13 国民生活基礎調査に基づく受診率



出典：統計表「政府統計の総合窓口 e-Stat」よりダウンロード